

内海としての紀伊水道

菱沼一憲

Kii Suido as an Inland Sea
HISHINUMA Kazunori

はじめに

- ① 潟湖—内海地域構造
 - ② 内海としての紀伊水道—その政治的・軍事的動向から
 - ③ 河川と潟湖と内海
- まとめ

【論文要旨】

湾・湖・海峡など閉ざされた内海環境では、より水上交通が発達しやすく、小規模な港が数多く設けられ、それらが連携して密度の高い流通網が構築される。こうした内海とその沿岸内陸に形成される一つのまとまった地域を「内海地域」と規定する。内海地域には歴史的な変遷があり、とくに近世以前では、潟湖—内海の関係を重視する必要がある。本稿では、紀伊水道を内海に措定して潟湖—内海関係により生み出される地域関係—内海地域の存在を浮かびあがらせ、その政治的・軍事的な活動と変遷を明らかにし、歴史的な意義につき考えてみた。

古代では河川が海に注ぐ場所—水門（ミナト）であり、砂質海岸の多い日本では河口潟湖が形成されやすく、そのためミナトに「湖」を宛てることまみられる。河口潟湖は港として利用され、中世ではことに潟湖と海の結節点、つまり潟湖内の湊としての島・江の存在が重要となる。阿波では富田庄の津田島・萱島庄の別宮（宮島）・

勝浦新庄の小松島などであり、そうした湊としての島は、紀伊水道に対して裏側にあたる「江」「江湖」といった潟湖や河口部分を湊として利用していた。つまり海に面してはいるが実質的に川津である。内陸の川津から搬出される物資は川船で河口の島の津に運ばれ、そこで潮・風待ちをして海へ出るといったシステムができていたのだろう。内海地域で活躍したのは、川・海兼用の小船であり、それが内海の河口湊を連携しつつ内陸・海を自在に移動することで、活発な人的・物的交流を作り出していた。内海地域の形成に対して中央権力側は、湊たる島の庄領・地頭領への編入や、人的資源の隷属化により、その再編・統合をはかる。地域の側は、あるいは中央の動向に便乗して癒着し、あるいは反発し敵対するなど、個々の利害に応じて様々に反応した。こうした地域—中央の関係を軸に政治史・地域史を再構築する必要がある。

【キーワード】内海、潟湖、湊、水上交通、地域社会